

地域おこし協力隊通信 (No. 49) 寒いと言ったら 500 円! (知史)

先日、嬉しいことに、あるマンションの住人の皆さんで行われる飲み方にお招きいただいた。というか、マンションの住人達で飲むというイベントそのものが珍しすぎて、それはそれは驚いた。マンションなんて、東京に住んでいる頃は「隣は何をする人ぞ」と言わんばかりに、何人住んでいるのか、名前も姿も知らなかった。

そんなはずの隣人同士が、まるで親戚の集まりみたいに公民館に寄り合って飲んでいる。お互いの子ども同士は一緒に遊んでいて、親はそれを見守って笑う。最年長のウイスキー好きの方が、若造のためににこだわりの製法で丁寧ハイボールを作る。そこに恩着せがましいものはない。

食卓には、その日に突いてきたという鰻。美味しい……! 鰻なんて食べたの初めてだ。というか、突けるものなのか。そして、捌けるものなのか。

宴もたけなわ。しかし夜は遅い。そろそろ終わりにかと思ったら、信じられないことに、これから二次会は屋外で飲むという。「さむいって言ったら罰金500円ね!」そんなローカルルールを告げられた後、12月の寒空の下で二次会が始まった。さっきまでみたいに公民館で飲んでいればいいのに……と思わなくも無かったが、みんながウキウキで準備しているのを見たら、無論そんな釘は刺せなかった。

冬の澄んだ空気。ラントンの灯だけが揺れている。キャンプで使っているようなイスに深く腰掛けると、暗闇に星が瞬いていた。

こんな素敵な時間を過ごすために、わざわざ外へ河岸を変えたのだろうか。それとも、マンションに近い方がいいだけ……? 何にせよ、もう遅くなってきた、酒で暖まったはずの身体が冷える。寒い。あつ、言ってしまった。

次にお呼ばれた時は、正直に500円を入れよう。それで、山登り用みたいなガチガチの防寒着で参加してやるんだ。

—湯目知史(ゆのめともふみ)—

中種子町地域おこし協力隊員。宮城県出身のライター。種子島の美しい瞬間を文字にして伝える。『ゆのめともふみ』で検索すると、noteというブログのよくなもので拙作がご覧になれます。

2020年10月号より、町の皆さんからよくいただく『地域おこし協力隊制度』や私達についての質問を、毎月少しずつ紹介しています!

【第4回】ふたりは、中種子に来る前はなにをしていたの?



2人の地元はどこなの?



東京ではどんなことをしていたの?

ともふみ	宮城県名取市 山の上の住宅地に住んでいて、雪が30センチ積もるのはザラだったんだよ!	
ゆか	岩手県花巻市 家の周りには田んぼばかり、のどかな平地温泉と宮沢賢治が有名だよ!	

ともふみさんは保険会社で、社員の人が同じようなミスをしないように対策を考える『事務リスク管理』という仕事をしてたよ。データの収集・分析が得意なんだ。

ゆかさんは、様々な業種で仕事を効率化する『業務コンサルタント』をしていたんだって。イベント等様々な企画や、問題がどこにあるか見つけることが得意だよ。



二人とも、東北出身なんだ! 雪がたくさん降っていて、お米とお魚と日本酒がおいしいところだね!

東北はとっても寒くて、口を動かすのも難しくなるので、言葉を短くする『訛』が多いよ! 例えば、「食べな、のみな」は「け」…1文字!?

※コンサルタントとは、それぞれの業種の知識を持っていて、ある事柄について助言・指導を行う専門家や相談役のことを広く言うよ。ゆかさんの場合は、実際に相談内容のお手伝いまでしていたんだって。